Q&A

アンケート調査などで寄せられた、障害者利用に関する質問についてお答えいたします。
各施設によって状況が異なるので、一概に「正解」とは言いがたい点もありますが、参考にしてください。

■視覚障害

Q 盲導犬の待機スペースが用意できない場合は、どのようにしたら良いでしょうか？

A 盲導犬は仕事をしているときはとてもおとなしくしています。専用スペースを常に準備していなくても、少しのスペースで待機できます。犬が待機するところに、マットや毛布などがあるとさらに良いでしょう。

→「第2章　身体障害者補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）への対応」（P20）

■聴覚障害

Q 聴覚障害者の初回登録時の対応は筆談で行っているため、とても時間がかかります。何か良い方法はありますか？

A 聴覚障害者用の説明資料を事前に用意してはいかがでしょうか。施設の案内やルールなどの資料を、シンプルな表現とイラストなどを使って作成しておき、初回利用時に読んでもらいましょう。その場で書くよりも時間が短縮でき、スタッフの誰が説明しても同様の案内ができる点でもおすすめします。
また、補足説明には筆談ボードを活用すると良いでしょう。タブレットなども活用できます。

→「第1章　聴覚障害とスポーツ」（P6）

■肢体不自由

Q 体育館内で競技用車いすを使用する場合、床に傷がつきませんか？

A 「絶対に傷がつかない」とは言えませんが、このことは、他の競技種目でも言えることだと思います。また、昨今の競技用車いすは、傷がつきにくい工夫を重ねて改良されています。一方で、バレーボールや武道などでは、床のささくれが事故につながる可能性があり、施設管理者として安全管理が必要になります。
そこで、施設側と利用者で話し合いを行い、利用者から具体的な練習メニューを示してもらうなどの調整をするとともに、転倒などにより傷がついたかもしれないと思ったら必ず報告してもらう、といった関係を構築するなど、相互理解を深めていくことも一案です。

→「第4章　床を傷つけない工夫　スポーツ用車いすの進化」（P35）

Q テニスコートやグラウンドで車いすを使用してプレイする場合、コートが傷むことはありますか？

A 東京都の障害者スポーツセンターでも、今までそのようなことはありません。人工芝でも大丈夫です。グラウンドの場合は、雨などでぬかるんでいたりすると、タイヤが沈んでしまって凸凹にはなるかもしれませんが、整備をすれば問題ありません。

■知的障害

Q 「プールサイドで走らない」などの注意は、知的障害の人にも同様に行っても良いのでしょうか？

A プールサイドを走ってしまうような場合には、一般の利用者と同様に注意を促していく必要があります。理解力には違いがあるので、普段のコミュニケーションを大切に、利用の状況などを見守っていくようにしましょう。また、注意喚起などの掲示は、絵やひらがな、ふりがななどの工夫をして、誰でも理解しやすいものにしましょう。→「第1章　知的障害とスポーツ」（P12）

Q 知的障害者などがパニックを起こしたときに、どのように対応したら良いですか？

A パニックを起こした状況や理由がわかる場合には、それを取り除く、もしくはその状況から遠ざけて、落ち着ける状況にしましょう。安心するような声かけをしながら、静かな場所や落ち着ける場所に連れていくと良いでしょう。

■内部障害

Q オストメイト用のトイレがないため、利用をお断りする場合があります。良い対応方法はありますか？

A まずは、事前にオストメイト用のトイレがないことを、情報としてお伝えすることが大切です。その上で、ご本人の体調などの状況や希望により、利用が可能かどうか、どのようにすれば利用できるかなどを確認していくようにしましょう。

Q ペースメーカーを使用している人がいます。何か注意することはありますか？

A ペースメーカーを使用している場合には、強い電磁波が出ている機械に触れることは危険です。電磁波で測定する体脂肪計などは使用しないようにしてください。また、脈拍を測定できるエアロバイクやランニングマシーンにも、電磁波を使用しているものがあります。メーカーに問い合わせ、ペースメーカーの人が利用できるかどうかを確認しておくと良いでしょう。

■精神障害

Ⓠ 精神障害者ですぐに休んでしまい、声かけをすると続けるのが難しいという人がいます。どのようにアドバイスをしていったら良いのでしょうか？

Ⓐ 薬の影響や普段の生活リズムなどで、精神障害者は疲れやすいことがあります。その人のペースやリズムで行えると良いでしょう。無理をしないように声かけをしていくことは大切です。また、少しずつ運動量や時間を延ばしていけるように、見守りと声かけ、目配りをしていくと良いでしょう。

■その他

Ⓠ 混雑している時間帯は、介助をすることが難しいです。どのように対応すれば良いでしょうか？

Ⓐ 利用者とコミュニケーションをとり、施設として介助ができそうな時間帯や空いている時間帯などを提示してみてはどうでしょうか。その時間に来られるなら、施設として介助を含め対応策を考えていけると良いでしょう。また、どうしてもスケジュール調整が難しい場合には、介助者をつけていただくなどの提案もできると思います。

→「第2章　申込み・問い合わせ時の確認ポイント：施設の情報を事前に伝える」(P16)

Ⓠ 障害のある方が参加できるスポーツ教室を運営しようと思いますが、どのようにしたら良いでしょうか？

Ⓐ 参加者の障害を把握して、安全に行える工夫をしましょう。本人と話をして、「どのようにするとやりやすいのか？」「スポーツ経験はあるのか？」「現在はどのような運動をしているのか？」「どの程度の動きができるのか？」などを、聞いていくと良いでしょう。介助者がいなくても参加できる人もたくさんいますので、どこまでできるのか、聞いていきましょう。

【周知用チラシへの掲載例】

●事前にお申し込みが必要です。申込方法は最終ページを参照してください。
●対象：15歳以上（中学生を除く）
障害をお持ちの方もお気軽にご相談ください。

武蔵野市スポーツ・野外活動情報誌『Do SPORTS!』に掲載されている「大人向けスポーツ教室」案内

対　象	目黒区在住・在学の知的障がいがある小学生、運動が苦手な小学生と保護者 ※保護者が在勤の場合は参加可

目黒区立八雲体育館の「ふれあい体操」チラシ

「障害者のスポーツ施設利用促進事業」　検討委員会

第1回 日時：平成27年6月29日(月)　10:00～12:00
場所：株式会社日本リサーチセンター　1階ホール
第2回 日時：平成27年11月16日(月)　15:00～17:00
場所：都庁第一本庁舎　会議室
第3回 日時：平成27年12月14日(月)　15:00～17:00
場所：株式会社日本リサーチセンター　1階ホール

【検討委員】

（敬省略）

氏名	所属等	
大久保（おおくぼ） 春（はる） 美（み）	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 技術委員長	委員長
澁谷（しぶや） 茂（しげ） 樹（き）	公益財団法人笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 主任研究員	副委員長
井田（いだ） 智（とも） 之（ゆき）	東京都障害者総合スポーツセンター スポーツ支援課 スポーツ支援係 係長	
伊藤（いとう） 卓（たか） 子（こ）	東京都障害者スポーツ指導員協議会	
上村（うえむら） 知（ち） 佳（か）	エイベックス・グループ・ホールディングス㈱ 総務人事本部 人事部 パラリンピアン(1988年ソウル・1992年バルセロナ・1996年アトランタ・2000年シドニー・2004年アテネ)	
太田（おおた） 澄（すみ） 人（と）	長野県障がい者福祉センター スポーツ課 主任指導員	
角（かく） 正（しょう） 真（まさ） 之（ゆき）	大阪市長居障がい者スポーツセンター 指導課	
近藤（こんどう） 和（かず） 夫（お）	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 事業推進部 部長	
高原（たかはら） めぐみ	文京総合体育館	
高山（たかやま） 浩（ひろ） 久（ひさ）	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 事業推進部 地域スポーツ振興課 課長	
橋本（はしもと） 雅（まさ） 之（ゆき）	青梅市 市民部 スポーツ推進課 課長	
増田（ますだ） 徹（とおる）	東京都多摩障害者スポーツセンター　スポーツ支援課　地域振興係 係長	
葭原（よしはら） 滋（しげ） 男（お）	パラリンピアン (1992年バルセロナ・1996年アトランタ・2000年シドニー・2004年アテネ)	

【専門委員】

（敬省略）

氏名	所属等
小淵（おぶち） 和（かず） 也（なり）	公益財団法人笹川スポーツ財団　スポーツ政策研究所　研究員
前田（まえだ） 究（きわむ）	社会福祉法人鹿児島県身体障害者福祉協会　企画課長

問合せ先

■障害者への対応に関することなど

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

〒162-0823　東京都新宿区神楽河岸1番1号セントラルプラザ12階

電話　03(5206)5586　　FAX　03(5206)5587

■センターの利用に関することなど

東京都障害者総合スポーツセンター

〒114-0033　東京都北区十条台一丁目2番2号

電話　03(3907)5631　　FAX　03(3907)5613

東京都多摩障害者スポーツセンター

〒186-0003　東京都国立市富士見台二丁目1番1号

電話　042(573)3811　　FAX　042(574)8579

■都の施策など

東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部障害者スポーツ課

〒163-8001　東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話　03(5320)7729　　FAX　03(5388)1227

参考文献等

■参考文献

『公共サービス窓口における配慮マニュアル-障害のある方に対する心の身だしなみ-』
内閣府

『改訂版「障害のある方への接遇マニュアル」』
東京都心身障害者福祉センター

『こんなときどうする?-障害のある人を理解し、配慮のある接し方をするためのガイドブック-』
名古屋市健康福祉局

■引用

障害者に関するマークについて(内閣府)　http://www8.cao.go.jp/shougai/mark/mark.html

ヘルプマーク・ヘルプカード

【ヘルプマーク】

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方など、外見からはわからなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることができるマークです。

ヘルプマークを身に着けた方を見かけたら、電車・バス内で席を譲る、困っているようであれば声をかけるなど、思いやりのある行動をお願いします。

（ヘルプマーク）

○電車・バスの中で、席をお譲りください。

外見では健康に見えても、疲れやすかったり、つり革につかまり続けるなどの同じ姿勢を保つことが困難な方がいます。また、外見からわからないため、優先席に座っていると不審な目で見られ、ストレスを受けることがあります。

○駅や商業施設等で、声をかけるなどの配慮をお願いします。

交通機関の事故など、突発的な出来事に対して臨機応変に対応することが困難な方や、立ち上がる、歩く、階段の昇降などの動作が困難な方がいます。

○災害時は、安全に避難するための支援をお願いします。

視覚障害者や聴覚障害者などの状況把握が難しい方、肢体不自由者などの自力での迅速な避難が困難な方がいます。

（表面：上部は都内統一デザイン）

（裏面：参考様式）

下記に連絡してください。

私の名前
（ア）連絡先の電話
連絡先名（会社・機関等の場合）
呼んでほしい人の名前

（イ）連絡先の電話
連絡先名（会社・機関等の場合）
呼んでほしい人の名前

（ヘルプカード）

【ヘルプカード】

障害者が普段から身に着けておくことで、緊急時や災害時、困った際に、周囲の配慮や手助けをお願いしやすくするカードです。

※ヘルプカードの活用場面

○災害が発生したとき
○災害に伴う避難生活が必要なとき
○道に迷ってしまったとき
○パニックや発作、病気のとき
○ちょっとした手助けが必要なとき　など

ヘルプカードには、緊急連絡先や必要な支援内容などが記載されています。記載内容に沿った支援をお願いします。

【問合せ先】
東京都福祉保健局障害者施策推進部計画課
☎03-5321-1111(代)　内33-226

みんなでスポーツ！誰もが楽しめるスポーツ施設運営をめざして
障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル

印刷物規格表　第1類
印刷番号　(26)27

平成28年2月　発行

発行　東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部障害者スポーツ課
〒163-8001　東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話　03(5320)7729　FAX　03(5388)1227
ホームページ　http://www.2020games.metro.tokyo.jp/

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会
〒162-0823　東京都新宿区神楽河岸1番1号セントラルプラザ12階
電話　03(5206)5586　FAX　03(5206)5587
ホームページ　http://www.tsad.or.jp/

印刷　株式会社日本リサーチセンター
〒103-0023　東京都中央区日本橋本町二丁目7番1号
電話　03(6667)3400　FAX　03(6667)3471
ホームページ　http://www.nrc.co.jp/